まちづくり懇談会内容

日　時：　令和 8 年 10 月 13 日(火)18:30～20:00
場　所：　カルチャープラザ
出席者：　　14 人

1．開　会
2．町長挨拶
3．懇　談
　（1）栗山町第 7 次総合計画後期実施計画の素案の概要について　資料①、資料②
　（2）関係機関・団体からの事前質問に対する回答　資料③
　（3）自由懇談
4．その他
　栗山町公式 LINE の運用開始について　資料④
5．閉　会

【自由懇談・そのほかの質疑など】

■町内会への加入について

町　　民　町内会に加入する人が少なくなるなか、高齢化率も非常に高くなっており、町内会では、お悔やみがあった際の香典だけでなく、お祝い金の仕組みを作るなど工夫しています。隣の町内では、町内会に入らない人が出てきています。町内会費の関係では、出入りが多くて町内会費を徴収していない町内会や、アパートの管理会社とオーナーとの話し合いの中で、年間半分を徴収している町内会もあるようです。近くのビレッジハウスでは、70 戸満室の状態で、町内会に入るよう促しています。町外からの方や外国人も住むようになっているので転入するときに行政も参加していただいてスムーズに住民自治が確立するようなってもらいたいです。

企画財政課長　皆さんが抱えている課題を解決するようなことができないかということで、先日、町内連合会で各町内会長さんにお集まりをいただき、情報共有のため、それぞれの取り組んでいるいろんな事例などをご紹介いただきました。町内会の加入率の問題などなか私どもから直接何かをということは難しいですが、意見交換、情報共有などを通じて、苦労されている部分の支援ができればというふうに考えています。

町　　長　町内会、自治会の問題ということでお話がありましたが、錦地区の取り組みはかなり先進的なものだなと思っております。町内会では 9 つのまちづくり協議会を作って、取り組みを進めていただいておりますが、この先、一つの単位町内会では行事ができなくなったり経営で難しくなったりするところもでてきて、将来的には、町内会の合併なども出てくると考えています。まちづくり協議会の制度は、単位町内会が一つになって取り組みを進めていくきっかけ作りのために作っています。そういったところを見据えながら、これから先、検討していっていただきたいと思っております。

■緊急通報装置の利用促進について

町　　民　町内会に入っていても、町内会の活動がだんだんできなくなってきています。高齢化し、また、親戚や知人と繋がりもない方が、体調不全を抱えながら一人で住んでいるといった問題も大きくなっています。そういう方は町内会に入っていても、声をかけて誘ってくれる人がいなければなかなか参加しにくい。栗山町でも緊急通報システムの助成金を出してくださっていると思いますが、なかなか広がっていないようなので、もう少し充実してきてくれれば、ありがたいと思っています。

福祉課長　町内会に加入しない方で一人暮らしの方も多々見受けられます。町では、民生委員さんや社会福祉協議会と連携して高齢者の見守り・声かけ等を行っています。話のありました緊急通報装置については、アルソックにお願いをし、鍵をお渡しして、何かあれば駆けつけてもらったり連絡してもらったりする体制を整えております。現在 50 から 60 の方にご利用いただいています。また、必要であれば、訪問看護や訪問介護をご利用いただいて、24 時間の訪問看護で状態が思わしくなければ、ご連絡をいただくことで看護師がお伺いするといった体制も整えています。生活の上で不安に感じること、また気にかかること、その他ご近所の方で気になる方がいれば、地域包括支援センターにご一報いただければ、支援のあり方について検討していきますので、お気軽にご連絡ください。

■転入後、数年で転出してしまう理由について

町　　民　住宅とかの助成金をしてくださっているのは非常に嬉しいことですが、数年の間に出て行かれる方が多い理由は何なのでしょうか。

総務課長　家賃補助があるので栗山町に転入してきたという方が実は少なかったという実情があります。例えば、仕事で栗山町に就職された方、転勤の方、会社の方から補助があった場合はこちらの家賃補助はありませんが、会社の方から家賃補助がない方については、町の方から仕事の都合で移住されたということで、一年間住んだ後に家賃補助したものの、また転勤で転出された、もしくは、栗山町でせっかく就職してもらったものの、退職してしまった。こういった転出者が多かったというのが主な理由です。

■介護福祉学生が町内で就職した場合の助成について

町　　民　介護福祉学校を卒業された方で『私は栗山町が好きなので、そのまま栗山町で働きたい』って言っていた方がいました。その方は栗山町の方でしたが、元々、別の市町村から来ている方もいらっしゃると思います。皆さんが自由に就職先を決められるわけではありませんが、卒業した後、そのまま栗山町で就職した方への助成に関しては考えていただくことはできるのでしょうか。

教 育 長　各施設の需要と供給が大事前提になりますが、奨学金制度を設けくれる施設も出てきました。また、道内に関連施設を持つ法人では、まずは町外の関連施設で働いてもらってから栗山の施設が空いたら入れるようになるといったことも考えられます。学生のレベルは、介護福祉学校の教員が先進的にしっかりと教育をしていただいていますので、ここ数年間、介護福祉士の試験に100%受かっています。包括連携協定を結んでいる各自治体の方に戻っていかれる学生もたくさんいますが、そういった中で、町内の充実というものを図っていく必要があるのかなというふうに思います。今年、介護のコンテストで、栗山高校が準優勝しました。これも介護福祉学校の先生と高校としっかり子どもたちを見守りながら指導した結果の表れだと思っています。

■介護福祉学校で教員と学生が一緒になっていろいろなものを作っていることについて

町　　民　介護福祉学校の学校祭に行ったりすると、先生と学生が一緒になっていろんなものを作ったり工夫したりしているのを見ていいなと思いました。

教 育 長　介護福祉学校では、地域課題に対する学習も行っています。例えば、障がいを持たれて不自由な方が、もっといい装具であったり道具であったり、それぞれの学生が課題について探求をしています。その発表会も行っています。プログラム開発事業という文科省事業を受けてから力を入れるようになり、介護福祉学校でプログラムや教育課程を組んでいます。そういうことをもっと町民に知っていただくように PR 活動も教育と一緒になって頑張っていきたいなと思っています。

■定住された外国人への対応について

町　　民　栗山町にも外国人労働者の方が来られていますが、町内会には加入していません。家族で定住されている方もおられます。当然生活をされているので、ゴミのことなどいろいろな問題が出てきます。生活習慣の違いもあって、町内会という組織の概念、そういうのが理解いただけない。お話しすれば挨拶はできますが、読み書きとなると、ゴミは何曜日で分別はこうだといった問題が出てきます。その辺をどのように対応していくのかお聞かせください。

企画財政課長　令和 7 年から法制化されたものがあり、各事業所・企業さんが外国人を雇用する場合、各自治体に届け出をすることになっています。単に届け出をするだけではなくて、例えば、勤めて雇用されている外国人の方に町で進めているルールでいうと、ゴミ等について町の方から企業さんを通して協力要請するといったスキームができております。今後そういった問題が増えてくる想定もしており、こういった制度を活用しながら、企業さんを通した協力要請や勤めている方に対していろんな連絡、お願いをしながら今後の状況を踏まえ取り組んでいきたいと考えています。

■介護福祉学校の外国人留学生受け入れの考えは

町　　民　東川町では外国人の方を介護福祉学校への留学生として受け入れしていると思いますが、栗山町ではそういう考えは。

介護福祉学校事務局長　外国人の方を受け入れるとなると、住まいの問題、生活習慣の問題など様々な対応をしなければなりません。介護福祉学校は町立の学校でありますが、そこに相当なエネルギー、リソースを割くことは、現実を考えると難しいのが現状です。東川町の学校には、十数カ国から留学生が来ていると聞いていますが、出身国が違えば、諍いもそれなりに起きるという話も聞いております。介護福祉学校では、長く道内にとどまって、中核的に活躍をしていただける人材を育成するところに主眼を置いて教育を行っております。外国人の方を増やすというよりは、日本人の方にしっかりと栗山町で介護の教育を受けていただいて、そして長く介護の業界で活躍していただける人材を育てたいというふうに考えております。